

第 章 パブリックアクセス向上のための基本方針と方策

第 1 . 伊勢湾におけるパブリックアクセスの課題と必要性

1 . 伊勢湾におけるパブリックアクセスの課題

第 章のパブリックアクセスに関する現状と評価を踏まえ、伊勢湾（三重県）におけるパブリックアクセス向上に向けた課題をとりまとめると、次の 3 点に集約できる。

(1) 多様な魅力拠点の形成

沿岸域における恵まれた資源を活用して、多様な魅力拠点を形成することが求められている。

特に、伊勢湾（三重県）における沿岸域には自然系の資源が多いことが特徴であり、これらを活かした憩いと潤いのある空間を基調として、その魅力化を図ることが必要である。また、海辺と分断されがちな既存のレクリエーション施設について、より親水性を付与すること、伊勢湾の歴史・文化や漁業等を活用した親水型の交流拠点を形成してビクターズインダストリーを振興すること、さらには環境学習の拠点として海辺を活用し、伊勢湾に対する総合的な理解の向上を促進することなどが、大きな可能性を持って展望できる。

(2) 利用と保全の方針の確立

環境保全に対する関心が高まり、また、市民レベルでの具体的な環境保全活動も広がりを見せているにもかかわらず、海辺の魅力を損なう不法投棄等の問題や、沿岸利用に関する住民とのコンフリクト等が生じるのは、沿岸域の保全と利用の方針が不明確で、保全のための規制・誘導が弱いためでもある。

具体的なパブリックアクセスを検討するに当たっても、パブリックアクセスの留保や配慮等にとって、この「利用と保全の方針」が不可欠である。

(3) アクセス機能の多様な充実

多くの人々の海辺に対する関心を高め、海辺に誘導するためには、公共交通機関、サイン、眺望ポイント等、多様なアクセス機能の充実が課題である。

特に、伊勢湾（三重県）では、堤防内側の管理用通路が利用できることから、空間的な障害が比較的に少ないため、ソフト的な取組でも効果は大きいと考えられる。また、ソフト的な取組を効果的に進めるため、官民協力、NPOとのパートナーシップなど、多様で柔軟な取組が望まれる。さらに、これらの取組を積極的に推進していくため、気運づくりも重要な課題である。

2. 伊勢湾におけるパブリックアクセスの必要性

伊勢湾（三重県）において、パブリックアクセスの充実を図る必要性（意義）は、前述の「伊勢湾におけるパブリックアクセスの課題」や、本検討の前提である「伊勢湾再生ビジョン策定調査（平成 13 年 3 月）」における「ベイ・アクセシビリティ・プログラム」を踏まえると、次の3つを指摘することが考えられる。（次頁の図参照）

(1) 伊勢湾への関心と理解の促進

現在の伊勢湾（三重県）では、豊かな自然、恵まれた歴史・文化資源等が残っている。しかし、県民や来訪者の関心が一般に弱いために、これら資源の位置づけや保全の方針が不明確である。また、これらを保全し、有効に利用していく仕組みがとられていない。

しかし、伊勢湾の資源は、我が国において特有のものであり、県民だけでなく、未来も含めた国民の共有財産である。そのために、伊勢湾の現況、保全と利用の必要性、保全と利用の方法等について県民や来訪者の関心を高め、十分に理解されるような仕掛けを、パブリックアクセスの整備において期待されている。

(2) 海との関わりの再生と創造

現在の伊勢湾（三重県）は、堤防によって物理的にも眺望的にも遮られているところが多く、また、水際線が市街地から離れているところもあることから、日常的に海を実感しにくい構造になっている。しかし、過去の沿岸域では、海との関わりの強い生活が営まれていたと考えられることから、海との関わりを今日的な条件下で再生することが重要である。

さらに、現在の伊勢湾（三重県）では、主に海水浴や潮干狩り等のレクリエーションで利用されている海岸が多いが、自動車でのアクセスは可能であっても、鉄道・バスでのアクセスが困難なところが多く、しかもサイン等の情報も不十分などがあるなど、県民や来訪者が伊勢湾に触れ合うには、幾つかの障害が存在する。

しかし、伊勢湾には豊かな自然、歴史、文化等が存在している。これらを活かしつつ、海との関わりを今日的に再生し、未来に継承していくことによって、21 世紀のわが国をリードしうる豊かなライフスタイルを創造していくことが期待される。

(3) 個性的で魅力ある地域づくり

現在の伊勢湾（三重県）では、港湾・漁港等での親水型交流機能をはじめ、地域の個性を活用した魅力的な都市的魅力拠点が不足しており、県民や来訪者が伊勢湾を気軽に感じる機会が少なくなっている。

一方、先進事例では、それぞれの地域の個性を明確にする方向で、海辺に都市的魅力拠点を形成して、観光・商業等を含む新たな産業空間として活用する事例や、海を地域ブランドとして活用している事例もある。これらの潜在ポテンシャルが大きい伊勢湾沿

岸域においても、地域ごとに個性的で魅力ある地域づくりを進めていくことが期待されている。

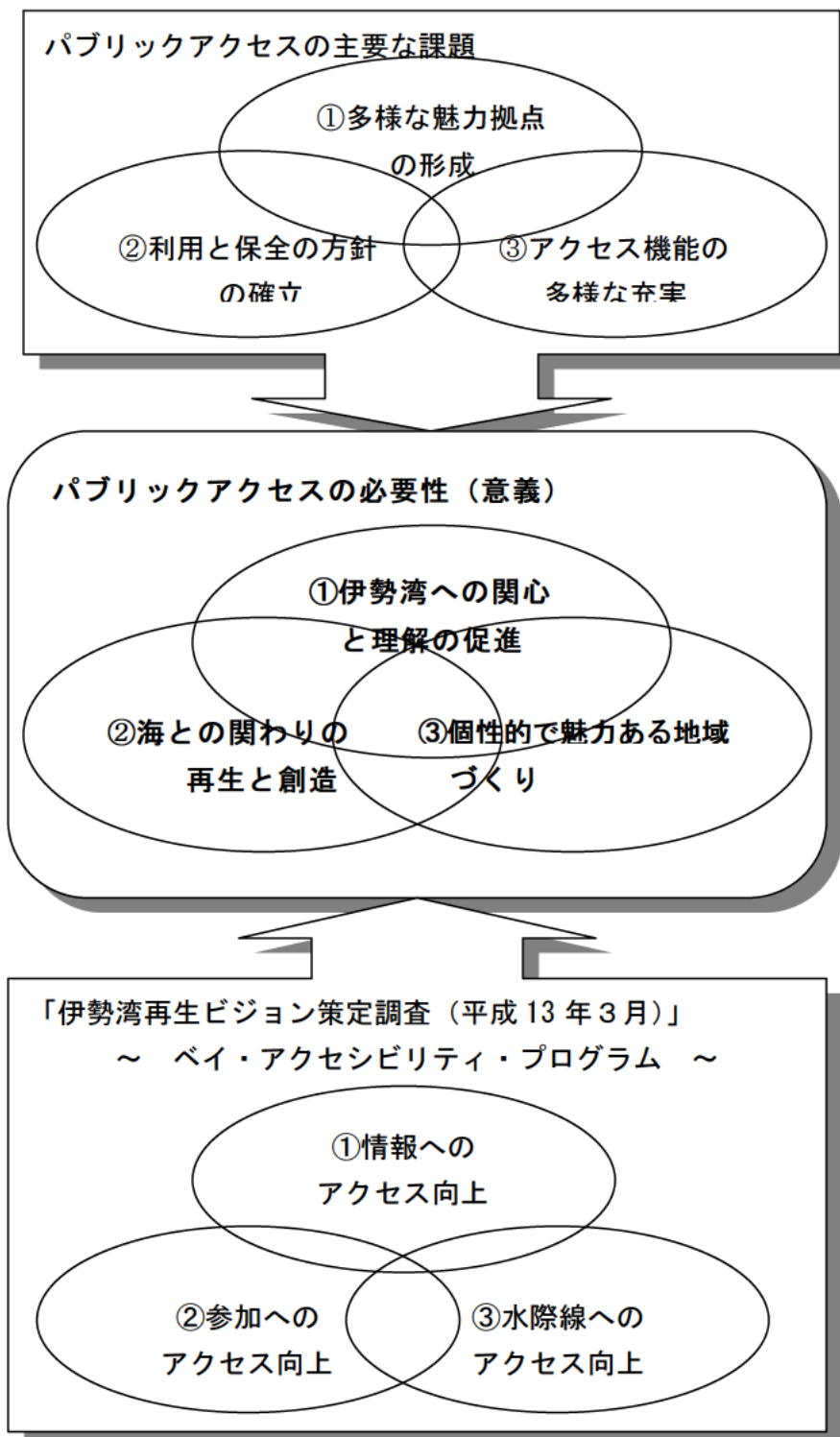


図3-1 パブリックアクセスの必要性（意義）